

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471903110
法人名	株式会社 ヴィクトリー
事業所名	グループホーム アイ・ウィッシュ 馬堀
訪問調査日	平成 19 年 10 月 23 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 26 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1471903110
法人名	株式会社 ヴィクトリー
事業所名	グループホーム アイ・ウィッシュ 馬堀
所在地	神奈川県横須賀市馬堀町1丁目11番5号 (電話) 046-838-5905

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2
訪問調査日	平成19年10月23日
評価確定日	平成19年11月26日

【情報提供票より】(平成19年 7月 23 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 7 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 5.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(450,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,430 円		

(4) 利用者の概要(10月23日現在)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.7歳	最低	62歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松本内科医院、石井歯科医院、いまざわ皮膚科医院、古屋歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から徒歩8分ほどの静かな住宅街に位置している。南面に広い庭があり、草花や野菜が植えられ、食材として食卓にのりこもある。広い庭は、納涼祭の時には利用している。
 運営法人の2つ目のグループホームであり、その人らしく今までの生活の継続と地域の一員として、地域の中で暮らしていくことを共通の理念としている。
 理念の実践に向けて、会話を大切にし、利用者の話や思いを傾聴すること、職員間においても気付きや疑問を話し合うことを大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム開所1年半で今回が初めての外部評価となる。評価の意義を理解し、今回の評価の受審を前向きに受け止め、利用者支援に役立てたいと考え、取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価の作成には全職員が関わり、現況を見直す良い機会と捉えている。その中で気付いたことを全員で検討し、サービス向上につなげている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は地区の4事業所合同で2回開催している。会議の内容は、構成メンバーの現況報告が中心となっている。メンバーの民生委員から当ホーム見学後の感想を受けて、職員の定例会で検討し、改善した事例もある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族から出された要望等は、申し送りや連絡ノートで職員間で課題を共有し、生活支援の場での実践に心がけている。苦情受付担当と苦情解決責任者をホーム内に掲示するとともに、入居時に利用者、家族に説明している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入している。回覧板でホームの行事を知らせて、地域の方が参加している。また利用者が地域の盆踊りに参加している。近所の方とは、散歩の時に挨拶を交わす関係になっている。地元の中学生の体験学習も受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として、利用者の生活の継続を大切にし、その人らしく暮らしていけるよう支えることを最も重要に考えている。また、利用者、職員も地域住民の一員として、地域の方々や福祉、医療、保健などの関係機関との連携を図り、地域の中で共に生活していくことを運営の方針としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けた日々の取り組みとして、職員の利用者への声かけ、和やかな会話、個々のペースに合わせて生活支援をしている。月に1度実施する職員の定例会でも常に話し合い、新人職員には、施設長から理念に基づいた接遇研修を行っている。理念を玄関のボードに掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板を利用してホームの行事を知らせて、地域の人を納涼祭や敬老会に招待している。また、民生委員のホーム見学や近隣中学校からの体験学習も受け入れている。ボランティアの受け入れも考えており、社会福祉協議会に依頼している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の実施の意義を全職員で理解し、自己評価には全職員が関わり、その中で気付いた課題について定例会で話し合い、改善に取り組んでいる。外部評価の結果も、更なる改善に活かしたいと考えている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地区の4事業所合同で、現在まで2回開催している。議事は構成メンバーの現況報告が多くなっている。民生委員からホーム見学後の感想を受けて、職員の定例会に報告して改善した事例もある。外部評価の結果は運営推進会議に報告し、メンバーからも意見をもらって、サービスの向上につなげたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に横須賀市長寿社会課がメンバーとして参加しているほかは、市との関わりはない。今後、市の委託事業なども受け入れ、連携していきたい意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、利用料の請求時に、利用者の暮らしぶりを報告しており、預かり金出納帳のコピー・領収書、行事の際のスナップ写真も同封している。状況に変化がある時は、随時家族に電話で知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望を数件受けて、全職員に申し送りや連絡ノートで周知し、要望に沿うよう対応している。家族会は立ち上げたが、活動はこれからである。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員はしばらくの間、日勤のみの勤務とし、利用者と早く馴染みの関係になるよう、接遇についての研修を行っている。新人職員には、できるだけ利用者とは話をすることを勧め、お互いの信頼関係を早く築けるよう工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、施設長か副施設長が内部研修を行っている。常勤職員は順番に、認知症介護実践研修を受講するようにしている。外部研修の成果を共有するために、内部で伝達研修を実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議を地区の4事業所合同で開催しており、相互に情報交換や現状報告をしている。同一法人のグループホームとの交換研修があり、研修後は報告書を作成し、全職員に周知し、研修成果の共有化を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望者には、入居前に2週間の体験入居をしてもらっている。その間、家族には遠くで見守ってもらうにいただき、職員が多く声かけするよう心がけ、お互いの信頼関係の構築に努めている。帰宅願望の強い方には、気分の転換を図り、徐々に馴染んでいけるように様々な工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者に何かを頼む時には「やってもらえますか」と意向を聞き、手伝ってもらった時は、感謝の言葉をかけている。庭の野菜畑での種まきを教えてもらったり、料理の味見を頼んだりして、利用者の得意な分野で活躍してもらっている。利用者から夜勤の職員に「一人で大変ね、頑張ってるね」と励ましの言葉をかけてくれることがある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時のアセスメントで、生活歴、趣味、特技などを聞き取っている。日々の利用者との関わりの中で、利用者から思いを聞き出すようにしている。思いを言葉に表せない利用者には、スキンシップを大切に観察で汲み取るようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を計画作成担当者が作成するにあたっては、職員の気づきや本人の希望をケアカンファレンスで話し合い、また家族からは電話で希望等を確認し、介護計画に反映させている。介護計画書に家族の署名と押印をもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。検討した結果、特に変化のない利用者については継続としている。何か変化があった時は、ケアカンファレンスを行い介護計画を作り直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開所1年半で、独自のサービスなどはまだないが、地域密着型のサービスとしての多機能性を活かした支援は今後の課題として認識している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を希望する方には、継続して受診の支援をしている。家族が付き添う場合、職員が付き添う場合のどちらも情報、結果を報告し共有している。2週間に1度内科医、1週間に1度歯科医の往診の体制がある。精神疾患のある方は精神科医の往診も受けている。今後は年に1度の健康診断を取り入れる予定である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、終末期におけるホームの対応について、本人・家族に書面で説明している。医療が必要な時は病院、それ以外はホームで受け入れることとしている。今後は、本人、家族等と話し合い、看取りの体制を整えていきたいと考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のファイル等は全て鍵のかかるキャビネットに保管している。個人情報保護についてホーム内に掲示している。守秘義務については会議で繰り返し話し、言葉遣いなどの接遇については、日常の業務の中で必要の都度伝えている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、個々のその日の状況(夜間不眠の方、気分の優れない方など)に応じて臨機応変に対応している。毎週末自宅に帰る利用者、たまに外泊する利用者もいる。正月は多くの利用者が帰宅や外泊をするので、ホームに残る利用者には、寂しくないよう配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1階は各テーブルに職員が入り、介助やさりげない促しをしながら、昔懐かしい歌をBGMに静かに食事を楽しんでいる。配膳、盛り付け、お絞配りや食後の下膳、テーブル拭きを利用者が行っている。2階は重度の方が多く、穏やかな雰囲気です事をしている。今後は、外食ツアーや出前なども検討していきたいと考えている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	平均週3回は入浴している。入浴表をつけて管理している。時間は午後2時から夕食前までとしているが、夕食後の希望にも対応している。拒否のある方は、先に入浴準備をしておいて、さりげなくお連れしたり、足のむくみのある方には、「お風呂の中でマッサージしましょう」と誘っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日手すりを拭く人、庭に水撒きをする人、洗車を手伝う人など、自然に役割が出来ている。習字の得意な人、絵の上手な人には納涼祭のポスター作りに協力してもらっている。普段のアクティビティでは、トランプ、歌などを取り入れ、楽しみの時間を作っている。喫煙の習慣のある人には、食後2本と決めて事務所で吸えるよう対応している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、午前、午後に分けて近くの公園や、近所へ散歩に出かけている。週に2回ほど車を利用して、駅前のスーパーまで買い物に行っている。時には気分を変えて、海岸の方へドライブに行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い方、徘徊のある方がいるので、会議で話し合い検討した結果、安全第一として、玄関には鍵を掛けている。同じ理由で2階の階段の仕切りに犬の鳴き声やメロディーのセンサーをつけている。一方、リビングは広く開口している。今後に向けてさらなる対応を工夫していきたいと考えている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年内に避難訓練を実施することを目指している。来年度からは年2回実施したいと考えている。消防署のホットラインを6箇所設置し、火災時は直接消防署につながるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>副食は、外部の食材業者より調達しており、カロリー計算のついたメニュー表をもらっている。味付けは薄味で対応している。また庭で採れた野菜を食材として取り入れ変化をつけている。糖尿病の方については医師より指導を受け、飲み込みの悪い方には、お粥やきざみ食の対応をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは明るく開放感がある。壁には職員と利用者と一緒に取り組んだ折り紙や、切り絵、行事のときのスナップ写真が飾られている。また中庭の壁には明り取りの小窓がついており、廊下が明るくなるよう工夫がされている。毎朝掃除の時に必ず換気をしており、空気のよどみを感じられなかった。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室にクローゼット、洗面台、冷暖房機器を備え付けている。また、防災面を考慮し、カーテンは防火用のものと決めている。他は利用者が使い慣れた物を持ち込めるようになっており、好みのベッドやテレビ、ソファなどが置かれている。</p>		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム アイウィッシュ馬堀
(ユニット名)	アイウィッシュ馬堀 1階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市馬堀町1丁目11番地5号
記入者名 (管理者)	江口 君代
記入日	平成 19年 7月 23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		事業所全体でも意識を高め、地域密着したサービスを提供していきたいと思います。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		ご利用者の権利を尊重し、基本理念に沿って「自分らしい生活」を守れるよう実行しております。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		見学会の機会も増やし、更に地域交流とともに理念の浸透を行っていききたいと思っています。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		今後も、町内会・自治会等に参加し、近隣の方々との交流を深め、気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気作りを行っていききたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		今後も、積極的に地域交流の場に参加し、地域活動にも取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	高齢者福祉に関する相談窓口は設けている。		地域の研修や啓発の場に参加し、近隣への高齢者の方に声かけし施設内でのコミュニケーションの場となるようケアサービスの推進に努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	今回、外部評価が初めてであり、意義等の理解は出来ている。今後、その評価に対して改善し取り組んでいく。		今回の外部評価をもとに今後、改善へ取り組んでいきたいと思っております。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	現状報告は常に行っております。又、運営推進会議で話し合い決定した事や施設見学会での意見等を活かし、定例会議にて全職員へ報告し、サービス向上に努めております。		今後も、運営推進会議などの参加を元に更なるサービス向上につなげていきたいと思っております。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議以外の場は、現在設けておらず実施できていません。		市町村とも行き来する機会を増やし、ケアサービス向上へ取り組み活かしていきたいと思っております。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	ご家族等のいない方たちに対して、成年後見人制度等の紹介や説明を行い活用できるよう支援しております。		外部研修に参加し、2次研修として施設内で伝達公衆を行っていききたいと思っております。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	職員同士の意識を高めることにより、虐待防止に努めております。		虐待についての学ぶ場を持ち研修内容にいれ、意識向上につなげ職員全体にて改めて再認識の場を持ちたいと思っております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書を基に、ご家族等に説明し、質問等を受け付け納得して頂ける様説明し、契約して頂いております。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当と苦情解決責任者を設け、ただちに改善できるよう努めております。又、苦情相談の掲示も行い外部へ表せる機会も設けております。入居時、または入居契約時に説明を行っております。</p>	<p>現在、苦情は上がっていませんが、苦情が出た際は、早期対応を行い解決にあたり、今後のサービス向上につなげられるよう取り組んでいきたいと思っております。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1度、ご家族へのおたよりにて、ご利用者のスナップ写真等を送付し、日々の様子が分かるよう報告しております。金銭の内訳も領収書や書類に明記しており一緒に送付し、ご家族に確認頂いております。又、健康状態・生活状況の変化が見られる場合は、その都度、ご家族への電話で早期報告をしております。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当と苦情解決責任者を設け、ただちに改善できるよう努めております。又、苦情相談の掲示も行い外部へ表せる機会も設けております。入居時、または入居契約時に説明を行っております。</p>	<p>現在、苦情は上がっていませんが、苦情が出た際は、早期対応を行い解決にあたり、今後のサービス向上につなげられるよう取り組んでいきたいと思っております。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回の定例会議にて職員の意見交換の場とし、話し合い検討しております。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急時は、常に管理者への早期報告にて連携を取り、必要な場合はすぐに駆けつけられる様にしております。各職員へも連絡網にてスムーズな連絡を行っております。</p>	<p>日勤と夜勤との引継ぎを円滑に行えるよう、基本的には夜勤勤務者は常勤にて対応しております。また、管理者とは24時間にてオンコール体制をとっております。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在、職員、ご利用者との関係を構築する為に、異動は最小限に留めている。又、新職員入社の際は、馴染みの職員が間に入ることによりダメージの軽減を図るよう努めております。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の定例会議にて、研修内容を各職員から募り、様々な職員の疑問解決に努めている。又、外部研修には率先して参加し、その外部研修を内部研修とし、他職員へ伝達している。		随時、様々な視点からの知識や介護にあたるため内部研修、外部研修ともに実施していきたいと思えます。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所前より、他の施設の訪問や見学等、勉強会に参加して同業者と交流する機会を設けています。又、当施設はもう1つグループホームを開設しており、ともに向上を図れるよう運営しております。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者が常に、職員の意見・疑問を聞ける場を設けており、職員のストレス状況の把握・改善に努めております。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員の状況を把握し、個人に比重がかからないように勤務表は十分配慮しております。また能力の把握にて適材適所の配置を心掛けております。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談者に対し、対応する職員は常に、受容と傾聴を心がけております。		相談者に対し、対応する職員は常に、受容と傾聴を心掛けております。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時など、ご家族とのコミュニケーションも大切にし、ご家族様の意見等を聞き入れる姿勢を取り、把握して対応を行っております。		相談者に対し、対応する職員は常に、受容と傾聴を心掛けております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時のアセスメントを基に、現ケアマネジャーに相談し、最善のサービスを提供できるようにしております。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の説明や見学を随時行い、また実際に体験していただけるサービスも実施し、納得の上入居して頂いております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の意見を尊重し、人生の先輩として様々な学びを日々受けております。又、意見を反映しながら、生活環境の改善に努めております。		調理や掃除等とてもためになる知識やアドバイスを頂いており、現場にて実施しております。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族等への報告、相談をすることにより、共ご利用者へ様々な視点から支援できるよう努めております。		施設本位にならぬよう努めております。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族からの意見を取り入れた上で、関係の理解に努め、よりよい関係になるよう支援しております。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の生活歴を把握した上で、外出や面会の窓口も広げている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者、個々で孤立しないよう職員が間に入り、利用者同士の架け橋になれるよう努めております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、様々な意見や相談を受け入れ、ご本人の入院等の場合は、面会へ行ったり等交流を継続しております。		今後も、退居後の継続的なよりよい関係を築いていけるよう努めていきます。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的な、カンファレンスによりご本人の意向を把握し、取り入れたケアにつながるよう検討し努めております。		より利用者様の意見を尊重し、ご本人本位のケアにあたる様努めていきます。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等や、ご本人の意見を反映し、様々な情報を取り入れサービス内容の検討に努めております。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々のご利用者の身体面、精神面の把握を行い、日々変化の基、現状把握が行えるよう、職員間においても情報を共有しケアにあたっております。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて様々な視点からの意見を取り入れ、ご利用者個々の状況に合わせた計画作成が出来るよう努めております。又、ご利用者主体である計画作成になるよう努めております。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の状況を常に把握し、随時適正に応じたプランの作成を、ご本人・ご家族等・職員等にて行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に関しては、日中 黒・夜間 青・医療面 赤にて明確にし、職員個々での確認も徹底し、日々の申し送りにて情報を共有し実践して、介護計画への見直し等へ反映できるよう努めております。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常に、利用者様やご家族様の意見を聞き入れ、外出・外泊または、ご家族様の宿泊などに対応できるように努めております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の取り入れは検討しております。		地域資源の検討を改め、協力しながらの支援が出来るよう努めていきたいと思ひます。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状、他のサービスを活用することなく経過しております。必要性に応じての検討は常に行い、他のサービス利用も視野にいれ対応しております。		今後、必要性に応じて他のサービス利用も積極的に取り入れていきたいと思ひます。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて地域包括支援センターと連絡・相談を行っています。		今後も、地域包括センターとの協働も行っていきたいと思ひます。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望のかかりつけ医の継続を行い、ご利用者個々の、身体面・精神面を把握し、変化がある場合はご家族様やDrへ相談・報告をし早期対応が行えるよう努めております。往診においては2週間に1度のペースで、医療面での支援を受けております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタルクリニックのDrとも連携を結び、日々のご利用者の変化に応じて連絡・相談し早期的な対応が行えるように努めております。又、一部のご利用者においては現在、往診も実施していただいております。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の看護職員からの助言・相談を受けております。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の場合は、ご利用者の現状を受け止め、病院側との情報の共有を行っております。退院後、リハビリ等の対応においては、接骨院との協働により早期回復にも努めております。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時において、終末期における当施設の対応について説明させて頂いております。また、終末期においても早い段階から主治医と連携を取り、ご本人・ご家族等と都度話し合いの場を持ち、方向性の共有を図っております。		ご利用者・ご家族等と主治医を交え、早期的な検討を行い全体での情報共有に努めていきたいと思っております。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居契約時においては、当施設での対応できる範囲を説明し、ご納得頂いております。重度・終末期において職員へは随時、情報を共有し適切な対応にあたるよう、指導しております。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の場合は、ご家族との密な事前の話し合い、以後の想定を踏まえて話し合いをし、転居先と必要な情報を共有し、ご利用者へのダメージの軽減を図れる様努めております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>ご利用者へ配慮しながら声かけできるよう、職員へも接遇の徹底しております。職員間でのご利用者の情報共有においても周りの状況を把握の上、プライバシーの侵害をしないよう配慮しております。又、記録等の保管は鍵つきの棚に収納しております。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>会話の中で、ご利用者主体になるよう声かけに工夫し、自己決定できるよう支援しております。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご利用者の個々の要望を取り入れ、日常会話の中からその日の大まかな予定を決め行動実施できるよう支援しております。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎月1回、理美容の機会を持ち、身だしなみはご本人の意思に合わせられるよう行っています。又、希望がある場合は外出の機会として外での理美容など行っています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員も一緒に食事をする事により、ご利用者の嗜好等、その場での意見を反映できるよう努めています。又、調理や配膳・下膳など個々の出来る範囲内で職員と共に実施しています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人が望む好みの物に関して、時間等の制限はありますが日常的に楽しめるよう支援しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>ご利用者個々の排泄パターンを把握し声かけ等を行い、失禁軽減に努めております。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>ご利用者に合わせた、入浴希望にて実施、入浴時間においてもなるべく意向に添えるよう、夕食後の夕方浴も実施しております。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>ご利用者の状況に応じて、適宜休息をしたり、就寝時間の声かけをし生活のリズムが保てるよう支援しております。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>ご利用者個々の生活歴の中での役割等を見い出し、日常生活の活性化を行っています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的なお金の管理は施設にて行っていますが、外出の際買い物などに関しては、ご自身にて支払いなど出来る方等、職員と共に実施しています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩や外出の機会を作り、又希望時にも実施しております。庭への出入りは基本的に自由にしていただいております。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>希望は常に取り入れ、選挙などへの外出付き添いなど実施しております。</p>		出来る限り希望に添えるよう対応し、外出支援を行っていきたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話をご本人から掛ける、又は職員にて代行するなどの支援を行っております。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決まっておりますが、面会があった際は自由に施設内を使用していただき、居室等で有意義に過ごしていただいています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職員への認識確認を行い、拘束のないケアにあたっております。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵の開放においては、ご利用者の状況にあわせ実施しています。		職員の更なるスキルアップを図り、常時錠の開放を目指します。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各職員声かけのもと連携を取り、ご利用者の所在確認、状況確認に努めております。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意しなくてはいけない物の判断を随時見直し、すぐに取り除くのではなく危険回避の検討とともに取り組んでいます。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修にて職員の知識はスキルアップを図れるよう努めております。ご利用者の事故への可能性を検討し防止につなげ、事故に関しては起きてしまった場合は必ず、職員全体で話し合いを随時行い再認識とともに事故防止に努めております。		ひやりハット・事故報告書を活用し事故軽減、職員の事故防止への再認識、向上を図ります。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを定期的に確認するよう職員へ徹底し、又救急法の研修にも随時参加しております。		定期的な訓練の実施。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者の研修を含め、避難訓練の実施にて職員の知識を高めております。		地域との協力、連携を拡げていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご利用者の様々な身体・精神面での変化などを、ご家族等への報告。現状の対応への相談し解決にあたっております。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定とともに、実際に職員がご利用者に触れ感じ、報告する事を業務内に取り入れ、体調の変化に対応していけるよう早期発見に努めております。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックや個々の服薬情報を職員内で共有し、把握に努めております。随時、身体面・精神面での変化等Drとの相談の上、検討実施しております。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ご利用者個々に応じた、排便の有無を確認の上、体操や飲食物の工夫を行っています。又、下剤の使用についてはDr相談のもと正しい使用法にて行っております。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔介助、または口腔声かけ等実施。又、歯科往診にて口腔ケアの実施。歯科往診時、職員の知識向上にも努め、日々のケアにて実施できるよう努めております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に栄養管理が必要なご利用には医師より、療養管理指導書、また医療管理下ではないが体重増加等が目立つご利用者など、必要に応じて食材納入業者の管理栄養士に都度、問い合わせ指導助言を頂いております。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防の呼びかけを職員へ行い徹底しております。インフルエンザ予防接種は毎年実施しております。		勉強会の実施、職員の認識の再確認。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生面に気をつけ消毒等管理を行い、予防に努めております。食材においては、業者での毎日配送にて鮮度管理の実施をしております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	装飾品などで季節感を感じていただける様努めております。玄関の場所については、やや分かりづらい位置にあります。		玄関への標識案内の設置。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔面を気をつけ、季節感のある装飾などで工夫しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下への椅子設置や、食堂への談笑場の提供等実施。又、喫煙場所の確保も行っております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に入居の際、ご本人の使い慣れたものなどを使用していただき居室内はご自由に、ご本人・ご家族等の意見を取り入れた環境になっております。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ご利用者に合わせた温度設定をし、常に換気を行い過ごしやすい環境になるよう努めております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下等の手すり設置など、利用者様に合った、環境整備を行っております。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者個々の状況に合わせ、声かけの工夫を行い混乱や失敗は防ぐよう努めております。残存機能を活かした介助にあたれるよう職員への育成も行っています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭は、畑を作り季節の物を育てたり、ご利用者と実際に畑で作業をしたり、庭の水巻等行って頂いており、気分転換等はかれるよう配慮しております。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設は、住宅街にあります。小さな庭を設けておりご利用者と一緒に畑にて菜園をし、季節感を楽しんでいただける施設になっております。

又、同法人内にある接骨院の往診にて、現状維持を図れるようリハビリ実施しております。

常に、受容・傾聴の姿勢を持ち、ご利用者にとって安らぎの場を提供できるよう心掛けております。

個人の自己決定を大切にし、日々の生活の中で役割を持つことにより日常の活性化につなげ、よりご利用者の「自分らしい生活」を目指し職員一同、支援しております。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム アイウィッシュ馬堀
(ユニット名)	アイウィッシュ馬堀 2階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市馬堀町1丁目11番地5号
記入者名 (管理者)	江口 君代
記入日	平成 19年 7月 23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		事業所全体でも意識を高め、地域密着したサービスを提供していきたいと思います。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		ご利用者の権利を尊重し、基本理念に沿って「自分らしい生活」を守れるよう実行しております。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		見学会の機会も増やし、更に地域交流とともに理念の浸透を行っていききたいと思います。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		今後も、町内会・自治会等に参加し、近隣の方々との交流を深め、気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気作りを行っていききたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		今後も、積極的に地域交流の場に参加し、地域活動にも取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者福祉に関する相談窓口は設けている。		地域の研修や啓発の場に参加し、近隣への高齢者の方に声かけし施設内でのコミュニケーションの場となるようケアサービスの推進に努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、外部評価が初めてであり、意義等の理解は出来ている。今後、その評価に対して改善し取り組んでいく。		今回の外部評価をもとに今後、改善へ取り組んでいきたいと思っております。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告は常に行っております。又、運営推進会議で話し合い決定した事や施設見学会での意見等を活かし、定例会議にて全職員へ報告し、サービス向上に努めております。		今後も、運営推進会議などの参加を元に更なるサービス向上につなげていきたいと思っております。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外の場は、現在設けておらず実施できていません。		市町村とも行き来する機会を増やし、ケアサービス向上へ取り組み活かしていきたいと思っております。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ご家族等のいない方たちに対して、成年後見人制度等の紹介や説明を行い活用できるよう支援しております。		外部研修に参加し、2次研修として施設内で伝達公衆を行っていききたいと思っております。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士の意識を高めることにより、虐待防止に努めております。		虐待についての学ぶ場を持ち研修内容にいれ、意識向上につなげ職員全体に改めて再認識の場を持ちたいと思っております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書を基に、ご家族等に説明し、質問等を受け付け納得して頂ける様説明し、契約して頂いております。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当と苦情解決責任者を設け、ただちに改善できるよう努めております。又、苦情相談の掲示も行い外部へ表せる機会も設けております。入居時、または入居契約時に説明を行っております。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1度、ご家族へのおたよりにて、ご利用者のスナップ写真等を送付し、日々様子が分かるよう報告しております。金銭の内訳も領収書や書類に明記しており一緒に送付し、ご家族に確認頂いております。又、健康状態・生活状況の変化が見られる場合は、その都度、ご家族への電話で早期報告をしています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当と苦情解決責任者を設け、ただちに改善できるよう努めております。又、苦情相談の掲示も行い外部へ表せる機会も設けております。入居時、または入居契約時に説明を行っております。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回の定例会議にて職員の意見交換の場とし、話し合い検討しております。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急時は、常に管理者への早期報告にて連携を取り、必要な場合はすぐに駆けつけられる様にしております。各職員へも連絡網にてスムーズな連絡を行っております。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在、職員、ご利用者との関係を構築する為に、異動は最小限に留めている。又、新職員入社の際は、馴染みの職員が間に入ることによりダメージの軽減を図るよう努めております。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の定例会議にて、研修内容を各職員から募り、様々な職員の疑問解決に努めている。又、外部研修には率先して参加し、その外部研修を内部研修とし、他職員へ伝達している。		随時、様々な視点からの知識や介護にあたるため内部研修、外部研修ともに実施していきたいと思いを。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所前より、他の施設の訪問や見学等、勉強会に参加して同業者と交流する機会を設けています。又、当施設はもう1つグループホームを開設しており、ともに向上を図れるよう運営しております。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者が常に、職員の意見・疑問を聞ける場を設けており、職員のストレス状況の把握・改善に努めております。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員の状況を把握し、個人に比重がかからないように勤務表は十分配慮しております。また能力の把握にて適材適所の配置を心掛けております。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談者に対し、対応する職員は常に、受容と傾聴を心がけております。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時など、ご家族とのコミュニケーションも大切にし、ご家族様の意見等を聞き入れる姿勢を取り、把握して対応を行っております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時のアセスメントを基に、現ケアマネジャーに相談し、最善のサービスを提供できるようにしております。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の説明や見学を随時行い、また実際に体験していただけるサービスも実施し、納得の上入居して頂いております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の意見を尊重し、人生の先輩として様々な学びを日々受けております。又、意見を反映しながら、生活環境の改善に努めております。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族等への報告、相談をすることにより、共ご利用者へ様々な視点から支援できるよう努めております。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族からの意見を取り入れた上で、関係の理解に努め、よりよい関係になるよう支援しております。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の生活歴を把握した上で、外出や面会の窓口も広げている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者、個々で孤立しないよう職員が間に入り、利用者同士の架け橋になれるよう努めております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、様々な意見や相談を受け入れ、ご本人の入院等の場合は、面会へ行ったり等交流を継続しております。		今後も、退居後の継続的なよりよい関係を築いていけるよう努めていきます。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスにおいて様々な視点からの意見を取り入れ、ご利用者個々の状況に合わせた計画作成が出来るよう努めております。又、ご利用者主体である計画作成になるよう努めております。		より、利用者様の意見を尊重し、ご本人本位のケアにあたる様努めていきます。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の状況を常に把握し、随時適正に応じたプランの作成を、ご本人・ご家族等・職員等にて行っています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録に関しては、日中 黒・夜間 青・医療面 赤にて明確にし、職員個々での確認も徹底し、日々の申し送りにて情報を共有し実践して、介護計画への見直し等へ反映できるように努めております。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて様々な視点からの意見を取り入れ、利用者様個々の状況に合わせた計画作成が出来るよう努めております。又、ご利用者主体である計画作成になるよう努めております。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の状況を常に把握し、随時適正に応じたプランの作成を、ご本人・ご家族・職員等にて行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に関しては、日中 黒・夜間 青・医療面 赤にて明確にし、職員個々での確認も徹底し、日々の申し送りにて情報を共有して実践し、介護計画への見直し等へ反映できるよう努めております。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常に、利用者様やご家族様の意見を聞き入れ、外出・外泊または、ご家族様の宿泊などに対応できるように努めております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の取り入れは検討しております。		地域資源の検討を改め、協力しながらの支援が出来るよう努めていきたいと思ひます。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状、他のサービスを活用することなく経過しております。必要性に応じての検討は常に行い、他のサービス利用も視野にいれ対応しております。		今後、必要性に応じて他のサービス利用も積極的に取り入れていきたいと思ひます。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて地域包括支援センターと連絡・相談を行っています。		今後、必要に応じて、地域包括センターとの協働も行っていきたいと思ひます。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望のかかりつけ医の継続を行い、ご利用者個々の、身体面・精神面を把握し、変化がある場合はご家族様やDrへ相談・報告をし早期対応が行えるよう努めております。往診においては2週間に1度のペースで、医療面での支援を受けております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタルクリニックのDrとも連携を結び、日々のご利用者の変化に応じて連絡・相談し早期的な対応が行えるように努めております。又、一部のご利用者においては現在、往診も実施していただいております。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の看護職員からの助言・相談を受けております。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の場合は、ご利用者の現状を受け止め、病院側との情報の共有を行っております。退院後、リハビリ等の対応においては、接骨院との協働により早期回復にも努めております。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時において、終末期における当施設の対応について説明させて頂いております。また、終末期においても早い段階から主治医と連携を取り、ご本人・ご家族等と都度話し合いの場を持ち、方向性の共有を図っております。		ご家族等と早期的な検討を行い全体での情報共有に努めていきたいと思っております。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居契約時においては、当施設での対応できる範囲を説明し、ご納得頂いております。重度・終末期において職員へは随時、情報を共有し適切な対応にあたるよう、指導しております。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の場合は、ご家族との密な事前の話し合い、以後の想定を踏まえて話し合いをし、転居先と必要な情報を共有し、ご利用者へのダメージの軽減を図れる様努めております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>ご利用者へ配慮しながら声かけできるよう、職員へも接遇の徹底しております。職員間でのご利用者の情報共有においても周りの状況を把握の上、プライバシーの侵害をしないよう配慮しております。又、記録等の保管は鍵つきの棚に収納しております。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>会話の中で、ご利用者主体になるよう声かけに工夫し、自己決定できるよう支援しております。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご利用者の個々の要望を取り入れ、日常会話の中からその日の大まかな予定を決め行動実施できるよう支援しております。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎月1回、理美容の機会を持ち、身だしなみはご本人の意思に合わせて行っています。又、希望がある場合は外出の機会として外での理美容など行っています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員も一緒に食事をする事により、ご利用者の嗜好等、その場での意見を反映できるよう努めています。又、調理や配膳・下膳など個々の出来る範囲内で職員と共に実施しています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人が望む好みの物に関して、時間等の制限はありますが日常的に楽しめるよう支援しています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>ご利用者個々の排泄パターンを把握し声かけ等を行い、失禁軽減に努めております。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>ご利用者に合わせた、入浴希望にて実施、入浴時間においてもなるべく意向に添えるよう、夕食後の夕方浴も実施しております。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>ご利用者の状況に応じて、適宜休息をしたり、就寝時間の声かけをし生活のリズムが保てるよう支援しております。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>ご利用者個々の生活歴の中での役割等を見出し、日常生活の活性化を行っています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的なお金の管理は施設にて行っていますが、外出の際買い物などに関しては、ご自身にて支払いなど出来る方等、職員と共に実施しています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩や外出の機会を作り、又希望時にも実施しております。庭への出入りは基本的に自由にしていただいております。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>希望は常に取り入れ、選挙などへの外出付き添いなど実施しております。</p>		出来る限り希望に添えるよう対応し、外出支援を行っていききたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話をご本人から掛ける、又は職員にて代行するなどの支援を行っております。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決まっておりますが、面会があった際は自由に施設内を使用していただき、居室等で有意義に過ごしていただいています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職員への認識確認を行い、拘束のないケアにあたっております。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵の開放においては、ご利用者の状況にあわせ実施しています。		職員の更なるスキルアップを図り、常時錠の開放を目指します。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各職員声かけのもと連携を取り、ご利用者の所在確認、状況確認に努めております。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意しなくてはいけない物の判断を随時見直し、すぐに取り除くのではなく危険回避の検討とともに取り組んでいます。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修にて職員の知識はスキルアップを図れるよう努めております。ご利用者の事故への可能性を検討し防止につなげ、事故に関しては起きてしまった場合は必ず、職員全体で話し合いを随時行い再認識とともに事故防止に努めております。		ひやりハット・事故報告書を活用し事故軽減、職員の事故防止への再認識、向上を図ります。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを定期的に確認するよう職員へ徹底し、又救急法の研修にも随時参加しております。		定期的な訓練の実施。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者の研修を含め、避難訓練の実施にて職員の知識を高めております。		地域との協力、連携を上げていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご利用者の様々な身体・精神面での変化などを、ご家族等への報告。現状の対応への相談し解決にあたっております。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定とともに、実際に職員がご利用者に触れ感じ、報告する事を業務内に取り入れ、体調の変化に対応していけるよう早期発見に努めております。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックや個々の服薬情報を職員内で共有し、把握に努めております。随時、身体面・精神面での変化等Drとの相談の上、検討実施しております。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ご利用者個々に応じた、排便の有無を確認の上、体操や飲食物の工夫を行っています。又、下剤の使用についてはDr相談のもと正しい使用法にて行っております。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔介助、または口腔声かけ等実施。又、歯科往診にて口腔ケアの実施。歯科往診時、職員の知識向上にも努め、日々のケアにて実施できるよう努めております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に栄養管理が必要なご利用には医師より、療養管理指導書、また医療管理下ではないが体重増加等が目立つご利用者など、必要に応じて食材納入業者の管理栄養士に都度、問い合わせ指導助言を頂いております。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防の呼びかけを職員へ行い徹底しております。インフルエンザ予防接種は毎年実施しております。		勉強会の実施、職員の認識の再確認。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生面に気をつけ消毒等管理を行い、予防に努めております。食材においては、業者での毎日配送にて鮮度管理の実施をしております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	装飾品などで季節感を感じていただける様努めております。玄関の場所については、やや分かりづらい位置にあります。		玄関への標識案内の設置。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔面を気をつけ、季節感のある装飾などで工夫しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下への椅子設置や、食堂への談笑場の提供等実施。又、喫煙場所の確保も行っております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に入居の際、ご本人の使い慣れたものなどを使用していただき居室内はご自由に、ご本人・ご家族等の意見を取り入れた環境になっております。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ご利用者に合わせた温度設定をし、常に換気を行い過ごしやすい環境になるよう努めております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下等の手すり設置など、利用者様に合った、環境整備を行っております。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者個々の状況に合わせ、声かけの工夫を行い混乱や失敗は防ぐよう努めております。残存機能を活かした介助にあたれるよう職員への育成も行っています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階の庭の活用にて、畑仕事を行っていただいたり、菜園に携わり季節感等を楽しんでいただいております。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設は、住宅街にあります。小さな庭を設けておりご利用者と一緒に畑にて菜園をし、季節感を楽しんでいただける施設になっております。

又、同法人内にある接骨院の往診にて、現状維持を図れるようリハビリ実施しております。

常に、受容・傾聴の姿勢を持ち、ご利用者にとって安らぎの場を提供できるよう心掛けております。

個人の自己決定を大切にし、日々の生活の中で役割を持つことにより日常の活性化につなげ、よりご利用者の「自分らしい生活」を目指し職員一同、支援しております。